

NAGANO-KEN CLUB

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

JIA 長野県クラブ



Vol.77

2008

03.25

『建築祭』を終えて

JIA長野県クラブ会員委員長 市川 英一

今年度最大のイベントである「建築祭」が行われました。詳細は本誌の中で語られると思いますが、事業委員長の荒井さんはじめスタッフのみなさんの献身的な努力による円滑な運営がなされ、また特別審査員と講演をお願いした竹原義二先生がその風貌から想像していたよりずっと気さくな方でもあり、総じて大成功であったと思います。

ひとつだけ卒業設計コンクールで残念に感じたのは、複数の審査員も指摘されていた事ですが、審査の場に作品を制作した学生をはじめ指導した先生やこれから卒業設計に取り組む学生がほとんどいなかった事です。せっかく公開審査としているのですから、入賞するかにかかわらず審査の場で得られるものは大きいと思うのですが、高校生は当日会場に来る事は難しいのでしょう。せっかく竹原先生の前で自作の説明を行う機会を放棄した大学生については、これ以上にどんな大切な用事があったのか？想像に苦します。やはり、審査の場に居合わせる事が基本でしょう。ただし、卒業式と重なってしまった高校生のように出席できない場合もあるでしょう。出席できない方もこのコンクールから何かを得てほしいと思いました。支部の教育委員会で修士設計展を立ち上げる議論をしていた時に、その目的が「指導する先生と学生が他校の

作品に刺激を受ける事で修士設計がより質の高いものとなるように」という事から、出展者に作品をデジタルデータにしてもらいネットで公開することになりました。作品は年度毎に支部のホームページの「ギャラリー」に掲載されています。スタッフの多大なエネルギーを注ぎ込んでいる当クラブの卒業設計コンクールが、より一層卒業設計に取り組む学生や先生の参考になり県内の設計教育のレベルをより高める一助になる事を望みます。関係者の労は増す事になるでしょうが、入賞作品だけでも審査講評と合わせてネットで公開するなどできれば、公開審査に出席しなかった学生や先生も、このコンクールから何かを得ていただけるのではないかと思いました。

最後に、交通費や宿泊費そして懇親会費に至るまで全て自己負担で賄っているスタッフのみなさんのエネルギーには頭が下がります。私はほとんどその責任を果たせず反省しています。同時にスタッフの負担を減らさないと今後、続けていく事が難しいのではないかとも感じています。私を除いたスタッフのみなさん、「お疲れさま！」。



学生卒業設計コンクール 公開審査会



学生卒業設計コンクール会場



学生卒業設計コンクールの後の懇親会

3月1日(土)・2日(日)の2日間、長野市生涯学習センター(トイゴ)において、「JIA長野県クラブ建築祭」が開催されました。

「長野県学生卒業設計コンクール(第17回)」は、大学・専門学校・高校の部門ごとに公開審査が行われ、その後表彰式。懇親会では学生・審査委員・会員・賛助会員皆で楽しい時間を過ごしました。

「文化講演会(第16回)」には竹原義二氏をお招きして「建築の技」と題しご講演をいただき、特別審査委員として卒業設計コンクールの審査もしていただきました。

「会員作品展」には長野県クラブ会員の中から25名の出展があり、2日目の午前中には出展者による発表と質疑応答が行われました。



公開審査会の様子



JIA長野県クラブ 長野県学生卒業設計コンクール 審査結果

2008/03/01

賞名	学校名	受賞者名	作品名
大学の部	金賞 信州大学工学部	宮尾 真紗美	Ochanomizu Project
	佳作 信州大学工学部	桜井 愛海	Kyokadai no Kyokai
	佳作 信州大学工学部	中井 大海	まちへび
専門学校の部	金賞 上田情報ビジネス専門学校	飯島 園絵	“個”と“共有”
	銀賞 上田情報ビジネス専門学校	永井 裕樹	enjoy上山田温泉～愛がはぐくむ町～
	銅賞 上田情報ビジネス専門学校	松浦 宏文	元気のある町～海野町～
	特別賞 国際コンピュータービジネス専門学校	竹内 悟・山田さやか	分水嶺
高校の部	金賞 飯田長姫高校	塩澤 真奈美	かざこしの森美術館～四季の美しさを感じる～
	銀賞 飯田長姫高校	宮戸 洋一	飯田中央図書館再建計画～本と共に歩む道～
	銅賞 飯田長姫高校	平栗 大和	野外研修施設～サバイバル体験in無人島～
	特別賞 飯田長姫高校	安達 浩享	飯田市美術博物館・再開発～光と人が集まる美術館～

(応募数／大学の部7点・専門学校の部11点・高校の部17点)

■審査委員(敬称略7名) 竹原義二(特別審査員・建築家、大学の部のみ)、西沢利一(審査委員長・長野県クラブ会長)、小林 茂(新潟地域会)、米田雅夫(群馬地域会)、奥村一利(山梨地域会)、荻原 白(長野県クラブ)、山田健一郎(長野県クラブ)

学生卒業設計コンクール審査講評

審査委員長 西沢 利一(JIA長野県クラブ会長)

今年度の卒業設計コンクールは、全体を通して、縮小感があつた。高校の部において、それぞれが課題だとしたら、プランの未消化と、徹底した書き込みの不足が多かった。その中で飯田長姫高校が、一步リードしていた。特に金賞の塩澤さんの図面が、しっかりとしている。宮戸、平栗、安達さんは、もう一步だった。丁度、卒業式の日と重なり、説明が聞けなかったのが残念である。

又、専門学校の部は、上田情報ビジネス専門学校の充実が目立った。只、コンセプトに、人間の持っている本質とか、地球環境といったしばりににくいテーマは仲々難しい。金賞の飯島さんにとっても、人間はこういうものだという決めつけがなければ、表現のしようがない、人間そのものの視野を狭くする危険が生じる。しかし、その中でも精一杯健闘していた。銀賞の永井さん、銅賞の松浦さんは、身近なテーマでよかった。全体か部分かの目の違いが賞を分けた。特別賞の国際コンピュータービジネス専門学校の竹内、山田さんの共作は、力作であったが、風景を見るという事について、まだモノをつくるのかという、時間感覚の疑問があった。

今回、一番落ち込んだのが大学部門である。以前からの傾向にあったのだが、計画における周辺との関係や理由、平面計画が十分熟さないうちに、立体に移っている。指導側、学生双方に安易さが感じられる。大学は社会に出ていく最後の教育機関であるが、形だけのカッコよさは、学生に重い鎖をつけて送り出す事になる。金賞の宮尾さんが、唯一批評できる対象となつたが、あとは淋しい結果となつた。佳作の桜井、中井さん2名は許点だし、煮詰まつてないがアイデアを買った。7作品の内、3作品だけが卒業設計という事が判明したが、ここに至つては唖然としている。これは我々の主旨に反している。あくまでも卒業設計コンクールである。信州大学の今後の健闘を期待したい。

それでも、賞になった人達に心からお祝いを言いたい。明日への自信としてこれから頑張って欲しい。



第17回長野県学生卒業設計コンクール 受賞者のひとこと



前列：受賞された学生 後列：審査委員

専門学校の部 金賞 上田情報ビジネス専門学校 飯島 園絵



Q：今回の公開審査会に参加して、感じた事は？

A：学校でも作品のプレゼンテーションをしました。その時は考えていた事を上手く伝えることが出来ませんでした。しかし、今回はストーリーを組み立てながら、審査員の方に伝えることが出来ました。

Q：作品のコンセプト「個」と「共有」について考えたことは？

A：まず、私の趣味の空間を創ろうと思いました。私の空間から個の空間。そして家族と私の関係、すなわち家族間の交流をかたちにすることで「個と共有」が表現出来ると考えました。室内の扉、壁を取り去ることで心の扉も開く。他人を認めることで、自分も認められる。布の様な曲線で壁を構成したのは、曲線の方が色々な方向を向くことが出来るからです。

Q：今後の豊富は？

A：専門学校卒業後は、電気資材の会社へ就職します。今回の受賞を励みとして社会人として頑張って行きたいと思います。

大学生の部 金賞 信州大学工学部 宮尾 真紗美



Q：今回の公開審査会に参加して、感じた事は？

A：審査員の方々から多くのアドバイスをいただき、普段大学では聞けないお話を伺うことができ大変勉強になりました。また、卒業設計の意義を教えていただきました。今回のコンクールにエントリーはしてありながら今日の公開審査会への欠席者が多く、発表者が居ないことは同じ大学の仲間として恥ずかしく、審査員の方々には大変申し訳なく思いました。

Q：作品のコンセプト「Ochanomizu Project」について考えたことは？

A：自然と建築との関係をテーマにしました。私は自然に囲まれて育ちました。東京の御茶ノ水の駅周辺を選んだのは、よく遊びに行つ

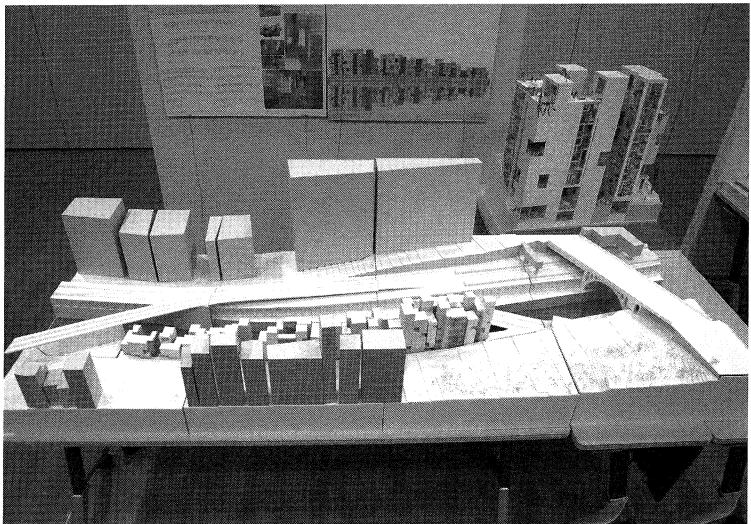
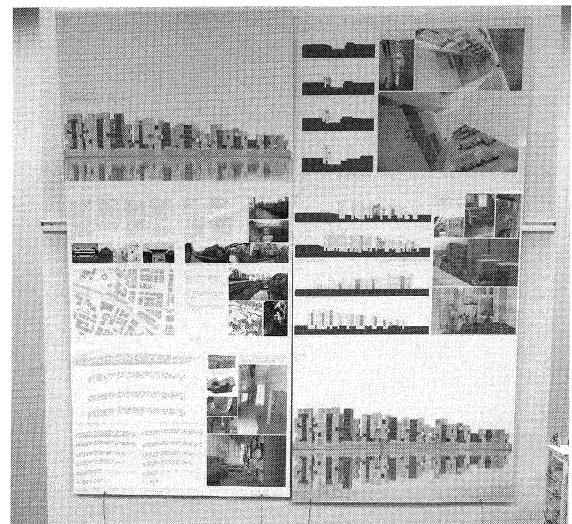
ていて、周辺の状況が理解出来ていたからです。

川が流れ坂の多いこの地は、自然と建築のあり方について表現するには、最適な場所だと考えました。川の流れに沿う様に配置された建築群、そして高さを傾斜に合わせることで、建築に自然を取り込む方法を表現しました。

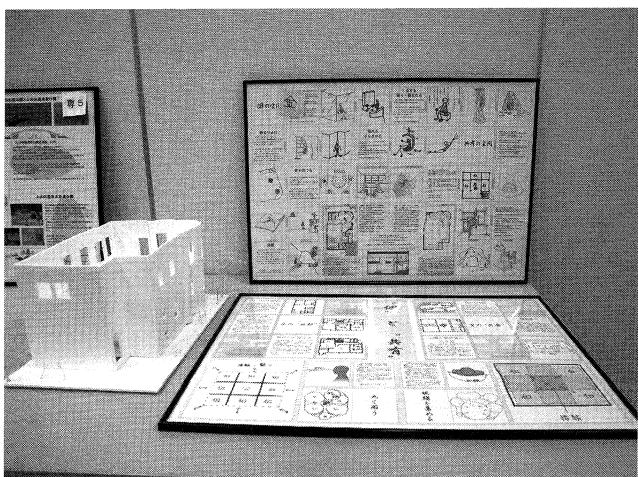
Q：今後の豊富は？

A：大学卒業後は大学院へ進みます。今回の受賞を機に、より自由な発想で建築の勉強が出来るようにしたいと思っています。

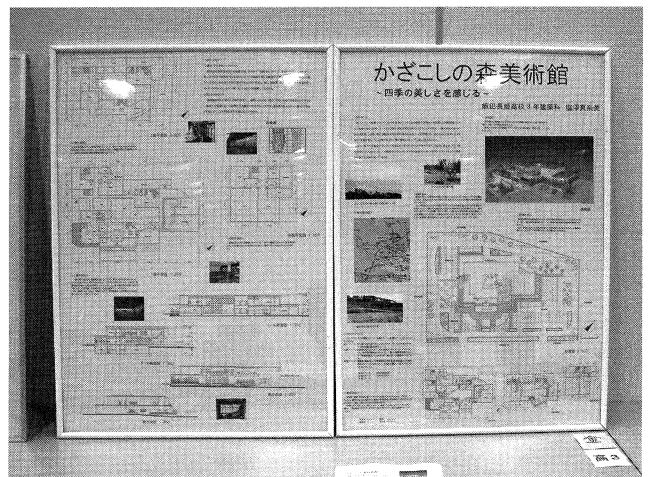
作品紹介



大学の部 金賞 「Ochanomizu Project」 信州大学工学部 宮尾 真紗美



専門学校の部 金賞 「“個”と“共有”」
上田情報ビジネス専門学校 飯島 園絵



高校の部 金賞 「cazoshi no mori Art Museum ~四季の美しさを感じる~」
飯田長姫高校 塩澤 真奈美

文化講演会に参加して

建築祭の二日目、竹原教授の講演を聴きに南信州から160キロのドライブがてら、長野まで出掛けて行きました。会員の皆さんのお作紹介の後、いつもの帽子・黒装束スタイルの竹原教授の講演会開始となりました。

伝統工法を引き継ぐ木構造を主体とした講演は、私自身の現在の主題でもあり、心の中で賛同・敬服する中、もう少しという余韻を残しつつ終わってしまいました。体育館を凡庸に鉄骨造で組み上げれば工期短縮・精度良好・コストも管理者の評価も、そこそこに完了するものかもしれません、今や絶滅寸前の伝統木工法にこだわり、設計施工時の多難な問題を乗り越えようと奮闘する姿は、信州に生きる建築士に強烈な激励を与えるものでした。



講演会 竹原義二氏

又、伊勢神宮のアプローチ道の洞察も感服した次第で、歩くときの玉砂利の音・両脇スリット格子の高さ・空きのデザインの相違がもたらす陰影による心理感等、空間は光・影・時間だけでなく音・匂い・テクスチャーによって支配される事を再認識した次第です。

それにしても長野市は今会場の「トイーゴ」しかり、都心の組織事務所の仕事でしょうか、前面ガラス張の窓の開かない建築が目につきます。田舎者の私には息が詰まり、エネルギーを消費しない自然換気の信州らしい建築が出来ないものかと思ったしだいです。



文化講演会会場

会員作品展に出展して

「会員作品展」の会場に、25名、各々が力を注いだ建築の50枚以上のパネルが並ぶ様子は、圧巻でした。

建築祭、二日目には、「作品発表会」で設計者自身が、そのパネルを説明しました。私は今回の建築祭で、学生卒業設計コンクールの審査員をさせて頂きましたが、学生達に「思いつきのアイデアを建築にまとめあげていくだけのエネルギーが足りない。」などと、生意気な審査をした手前、いざ自分の発表の番になると、どうして良いやら・・・。

学生の卒業設計や課題では、建築に対するコンセプトや考え方を純粋に突き詰めていくべきある段階での「建築作品」とし



準備会議は何回も行われた



会員作品展の会場

山田 健一郎(山田建築設計室)

ての答えを出すことはできます。しかし、我々が実際に建築を創り上げる上では、施主の要望や予算など、学生の課題とは違った色々な要素と向き合いつつ、建築をまとめあげねばなりません。



「会員作品展」「作品発表会」・・・何が建築を「作品」とするに耐えうるか？一方で、施主や建物で過ごす人の気持ちと、建築家としての作品性の狭間で、何を考えて建築を創り上げるべきか？…など。各々の発表を聞きながら、漠然と余分な事を考えてしまいました。



出展者による発表と質疑応答

■JIA長野県クラブ 建築作品展（2008年3月1・2日） 出展者（25名、北信9名・東信0・中信11名・南信5名）

- ・赤羽吉人・荒井洋・新井優・池森梢・小川原吉宏・尾日向辰文・片倉隆幸・勝山敏雄・川上恵一・吉川一久
- ・木下光・倉橋英太郎・鈴木芳彦・須田考雄・児野登・西沢利一・野口大介・林 隆・広瀬毅・福島透・藤松幹雄
- ・丸山幸弘・宮本忠長・山田健一郎・吉田満



お陰様で第二回目となる建築祭が無事終了しました。運営に当たりご参加下さった会員、賛助会員の皆様のご協力に感謝致します。二回目となりますので準備作業は楽になるものと

考えておりましたが事務局が交代して始めての大きな行事であったこともあり、昨年と同じように多くの時間を費やす結果となりました。事業委員会の皆さんの方でどうにか無事開催にこぎ着けられましたことを重ねて御礼申し上げます。卒業設計コンクール、文化講演会と会員作品展の同時開催の集客効果は大きく各会場

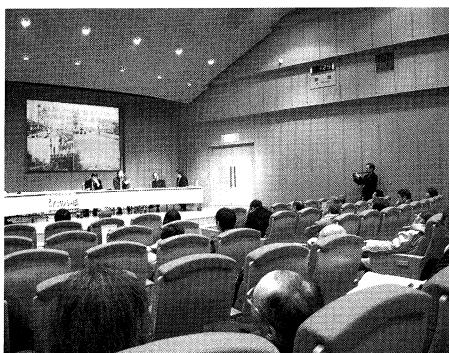
とも多くの参加者で賑わいました。ホテルを飛び出し一般に開かれた「建築祭」とする、西沢会長の決断は大正解であったと感じています。今年新たに加わった会員作品発表会も設計者自身の言葉を聞くことができ大変有意義なものでした。今後も続けていくべきです。また専門学校の卒業制作のレベルが年々向上していることも、驚きです。荒唐無稽なでたらめとも言える建築が、このところ実に良く考え抜かれた案に変わってきているとともに、図面表現も良くなっています。これは教師の質が上がってきていることの現れで、合同で開催していることの成果だと考えられます。一方残念なことは信大のレベルの低下が激しいことです。特に今年は審査員7名に対して作品数が7、発表者が3名という惨憺たる結果で、危機感すら感じました。大学に対し強く意見する必要が有りそうです。

(社)日本建築家協会関東甲信越支部第17回保存問題新潟大会に参加して

丸山 幸弘(館KAN設計工房)

2月16・17日に新潟県新発田市において、(社)日本建築家協会関東甲信越支部第17回保存問題新潟大会(参加者230名)が開催され参加しました。本年度、私は関東甲信越支部保存問題委員会に出向させていただき、川上恵一委員長の下で勉強させていただいている。保存問題委員会は、通常JIA会館で毎月1回の委員会を開催し、時には5時間もの時間を費やし関東甲信越圏内で保存すべき建築の発掘や取り壊されそうな建築に目を配り、保存活動を行っている委員会です。当該委員会は毎年、地域会と「保存」「まちづくり」等の問題を共有し解決すべき活動を保存問題大会で行っています。今回の大会は建築物の保存という問題よりもまちづくりと言う問題が色濃く出た大会でした。衰退していく一方の町並みを個々の建築を出来るだけ残し連続することで、町並み保存に繋がるという視点でした。どの地方都市も共通の問題だと思います。しかし、時に地方での保存問題大会で少し視点がズレ

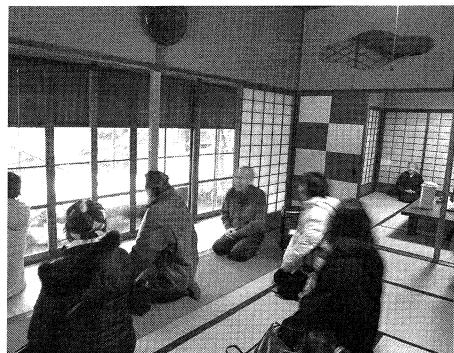
ル場合があります。それは建築物を保存するという本来の路線でなく、商業ベースでのまちづくりの色が濃くなる場合です。確かに保存とは密接に関係する問題ですが、本来の保存とは意味合いが多少違うことになります。今回の大会では観光の意味合いの強い点がありました。私たち参加者は地方の観光に行った訳ではありません。前段にも書きましたが保存という問題を地域会員と地域住民と共有し解決すべき活動をしているだけです。その点が今回の大会で不満の残る点でした。ただ、ウォッキングの中でレーモンドの新発田カトリック教会や石泉荘、足輕長屋は感動しました。来年度は神奈川県が大会開催県です。本来の保存活動に重点を置き大会が開催されることを期待します。最後に長野県クラブから11名の方が参加していただき、誠にありがとうございました。



シンポジウム



新発田キリスト教会



石泉荘

「JIA長野クラブに入会して」

スタジオアウラー級建築士事務所 吉田 満

この度、JIAに入会させて頂きました塩尻市のスタジオアウラ・吉田满です。私は、信州に移り住み今年で5年目になりますが、その節目の年に入会できたことは大変嬉しく思うと共に責任も感じております。

入会のきっかけは、昨年松本市美術館で行われた「松本・安曇野住宅建築展」で地域に密着し活躍される諸先輩方の活動を拝見し、建築が持つ人を動かすエネルギーを感じ、大勢の一般の方々と交流する姿にも強く共感したことがきっかけとなりました。

普段から「たて」「よこ」「うしろ」「まえ」など「つながること」が大切であると思うことが日々多くありますが、自らがつながりの

中に参加する機会がなかなかありませんでした。

しかし、入会早々「建築祭」に参加させて頂いた時には「自分が値するのか?」と自らの作品を振り返り躊躇ましたが、参加することで自分に試練を与え、より飛躍していくことを決意を固め参加しました。

一人で出来ることは限られますが、建築祭での諸先輩の方々の熱意と常に研鑽されている姿に心を打たれ、職能を全うすることで自分もまた地域の一員であるよう、「日々の仕事の質の向上」を目標に決意を新たにしています。どうぞ宜しくお願ひ致します。



賛助会だより

「入会にあたり」

この度、JIA長野県クラブ賛助会に入会をさせていただきました。(株)綿内瓦工業の西宮登喜男と申します。当社は長野市若穂綿内において営業しております。屋根瓦工事を主に、屋根工事全般(板金、化粧スレート、他)を施工。「技への挑戦」をモットーとして高い技術力が当社の源であり、それぞれの建築様式に合わせ個性豊かな瓦屋根のご提案をして参り

JIA長野県クラブ 賛助会員 (株)綿内瓦工業 西宮 登喜男

ます。機能性も兼ね備えた瓦の造形美は古くから日本の屋根を彩ってきました。先人からの技術に新しい技術を加え安全、安心できる建築物に仕上げ社会に貢献できたらと思います。会員の皆さんよろしくお願ひいたします。



「建築祭に参加して」

昨年の10月、転勤で20年振りに長野に舞い戻って参りました。前任者の渡辺君から引き継ぐ事になり、最大のイベント“建築祭”に参加させて頂くことになった次第です。参加させて頂き、又、審査・講評の場に直接立ち合わせて頂いた“貴重な体験”を通じて感じた事を述べさせて頂きたいと思います。

先ず感じたことは、専門学校・高校生の未完成であるけれど「自分で何かやりたい」と云う意思があったという事でした。この新鮮さは、「大事な財産」として、何時までも失ってほしくないと思います。他方、辛口な感想は、大学生の“出品”が、少なかったことでした。色々な時間的制約等有ったとは思いますが、地元で唯一の大学、期待が大きかった

JIA長野県クラブ 賛助会員 (株)角藤 長澤 和芳

だけに残念な思いでした。

最後に、設計・建築を取り巻く環境は非常に厳しい時代になってきていると思います。(入札制度・確認申請の問題・職人不足・資材の高騰…)、ただこの業界は、日本の基幹産業として減少したり、無くなってしまうならない業界です。若年層の皆さん、意欲的に参画出来、勉強したい、魅力有る業界に継承し、伝えていく事が私達世代の大きな役割であると思います。微力では有りますが、JIAクラブの皆さんと共に、今後とも活動に積極的に参画したいと思っております。

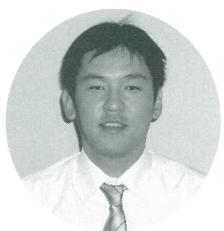


「次の変化が求められている時期」

JIA長野県クラブ 賛助会員 田島ルーフィング(株) 立野聰史

いつも大変お世話になっており、ありがとうございます。今年は年初から特に2月の間、近年にない(というかこれが本来の姿なのか...)寒い日が続き、また雪に見舞われる日も多く、私共屋根の上で常に空と向き合いながら仕事をしているものにとっては影響も大きく、折からの原材料の高騰も相まって大変に厳しい2008年のスタートとなりました。ようやく3月も中頃になって気候も和らぎ「さあ!頑張るぞ!」に行きたいところですが、言うまでもなく確認申請の遅れに伴う物件数の減少や原油価格の問題など、乗り越えるべき壁が大きく・高く立ちはだかっている状況です。ここまで

いくと何か愚痴をこぼしているように捉えられるかもしれません、我々防水業界に関しては、厳しい状況は今に始まった事ではなくこれまでこのような状況下で先人の方々は知恵を絞りそれらを乗り越えて変化・成長を繰り返しながら現在の礎を築き上げてきました。そして今の状況はまさに次の変化が求められている時期であり、その先には新たな明るい展開が待っております。田島ルーフィング(株)のこれから展開に大いにご期待願います。



■今後の行事予定

2008年4月14日(月)……JIA長野県クラブ幹事会
5月10日(土)…JIA長野県クラブ通常総会



「信州の建築家とつくる家(第4集)」
(社)日本建築家協会JIA長野県クラブ・編

発売中!!

定価1,500円

■「UIA 2011 東京大会」(2011年9月25日~10月1日の7日間)

早期割引登録申込みのご案内、締切り迫る!!

2008年3月末まで¥30,000(正規料金¥50,000)で早期割引登録を行っています。

お申込みは、
UIA2011東京大会 日本組織委員会・事務局まで
TEL.03-3408-7125

《UIA2011東京大会とは》3年に1度開催される国際的な建築の祭典「国際建築連合(UIA)大会」が2011年に東京で開催されます。約10000人(海外から3000人、国内7000人、うち1000人は招待者)もの建築家、技術者及び建築関連企業関係者が世界中から参加する大規模な国際会議です。今年2008年はイタリアのトリノ大会。

編集後記

2期4年にわたりまして、この会報の編集に携わらせていただきました。毎号10名前後の会員・賛助会員の方に原稿をお願いしましたが、お忙しい中ご協力をいただきまして本当にありがとうございました。時代は大変なスピードで流れています。多くの設計事務所や企業が自社のホームページをもち、物を調べるには辞書や書物を読む前にお手軽にパソコン検索。情報があふれています。そんな中で、紙媒体によるこの会報。原稿がそこまでの過程もかなりアラログなのです。まずは原稿依頼。早く届く人もいれば、期日を過ぎても何の連絡もない人も、時には催促することが広報委員の仕事なと見えるような日々も。その反面、お目にかかる事のない方や先輩の先生から暖かいお言葉をいただき、そこには思われぬ展開が待っているのです。その思われぬ展開こそがまさに人と人との対話。今思うと広報の仕事を通じて、貴重な経験をさせていただきました。.....広報委員長 林 隆

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／林 隆 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
発行人／西沢利一 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp